

# 千葉市における女性の社会参画に関する意識調査 調査結果報告書(ダイジェスト版)

資料3

千葉市男女共同参画センターでは、平成31年度事業として「千葉市における女性の社会参画に関する意識調査」を実施しました。本調査は、千葉市内にお住まいの皆様を対象に、女性が地域活動、職業、政治などの分野に参加することに対する市民の意識と実態を探り、今後の施策や事業に反映させることを目的としています。

なお説問中、男女共同参画社会に関する意識については前年の別途調査においても実施し、また前回の「千葉市における女性の社会参画に関する意識調査」は、平成19年9月(2007年)に実施しています。

* 調査の対象	千葉市内にお住まいの満20歳以上65歳未満の男女各1,500人 (無作為抽出)
* 調査の方法	郵送配布—郵送回収法
* 調査の期間	令和元年7月30日～8月29日
* 回収の状況	回収数: 917件(有効回答数: 30.6%) 有効回答数: 866件(有効回答率: 28.9%)

注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

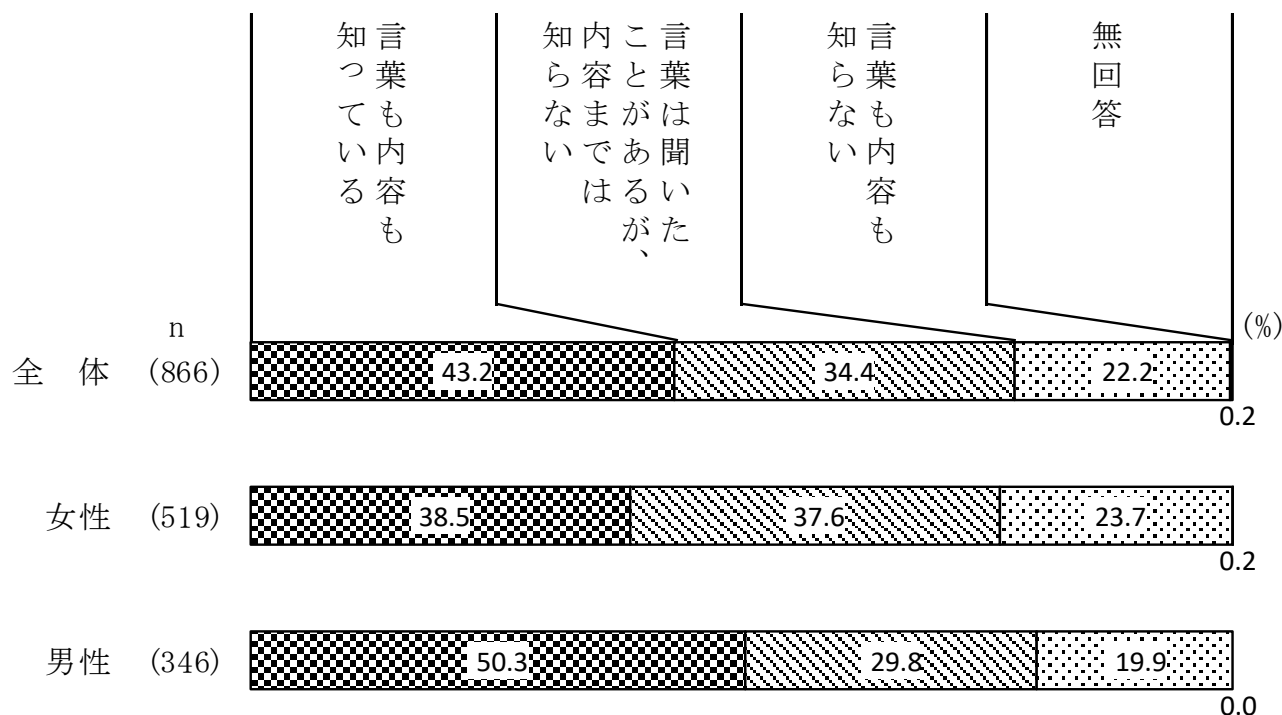
# 1. 男女共同参画社会に関する意識について

## 言葉に関する認知度(問1)

### 【男女共同参画社会】

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている(聞いたことがある)』は77.6%である。性別で見ると、女性では38.5%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では50.3%と、男性の方が11.8ポイント高い。

この『言葉を知っている(聞いたことがある)』が全体の70%台であること、そして男性の方がポイントが高いことなどは、ともに前年と同じ傾向である。



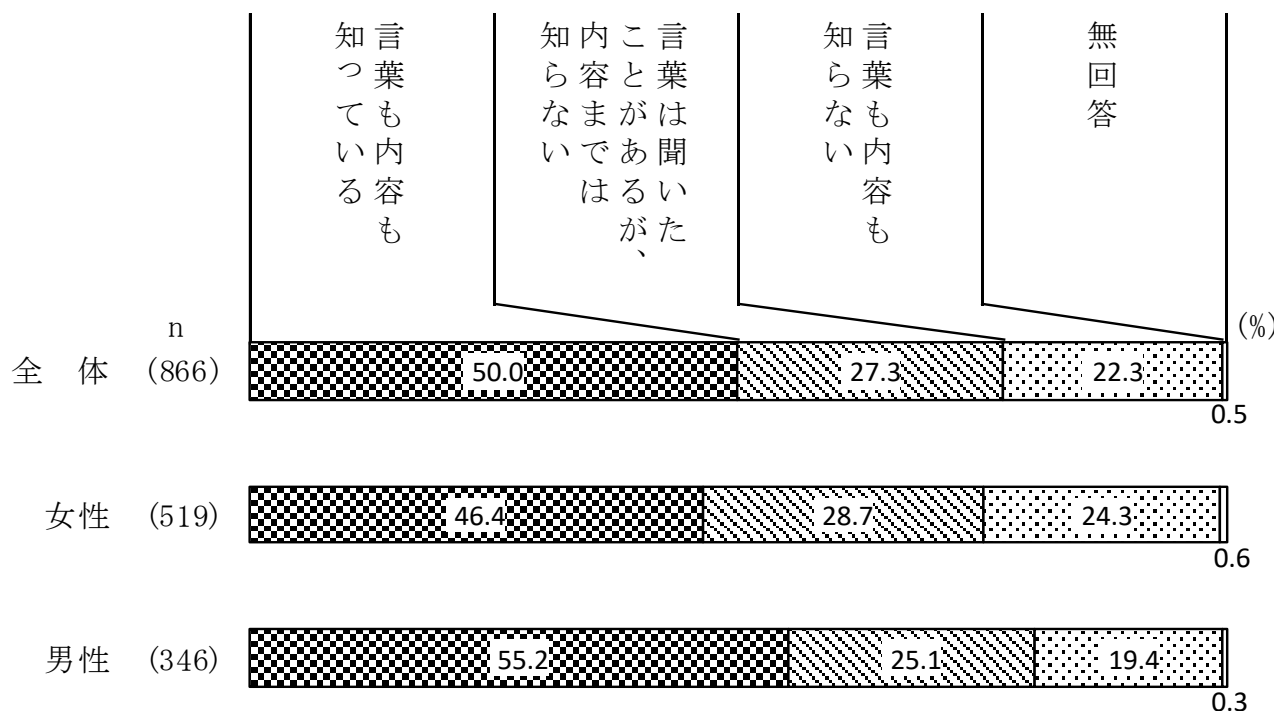
# 1. 男女共同参画社会に関する意識について

## 言葉に関する認知度(問1)

### 【仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)】

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている(聞いたことがある)』は77.3%である。性別で見ると、女性では46.4%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では55.2%と、男性の方が8.8ポイント高い。

この『言葉を知っている(聞いたことがある)』が全体の70%台であること、そして男性の方がポイントが高いことなどは、ともに前年と同じ傾向である。

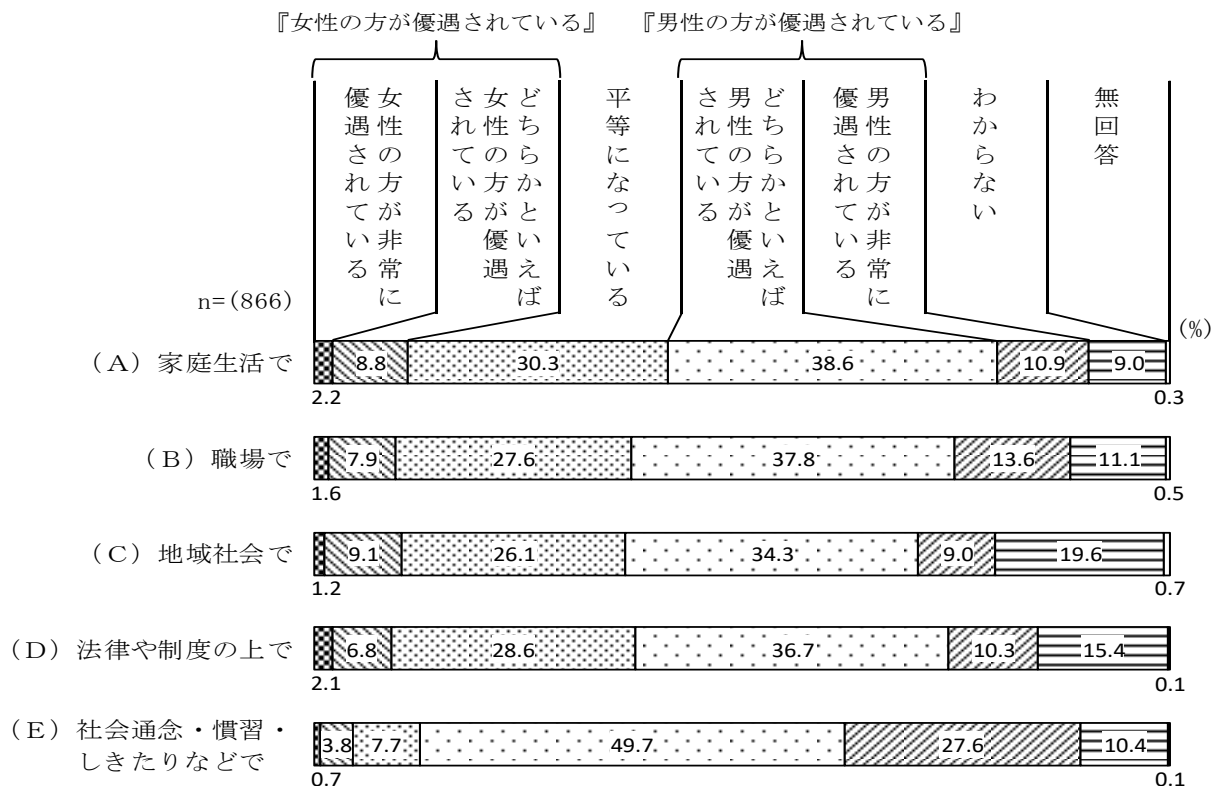


# 1. 男女共同参画社会に関する意識について

## 各分野での男女の地位(問2)

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性のほうが優遇されている』は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が77.3%で最も高く、次いで「職場で」の51.4%である。一方、「平等になっている」は、「家庭生活」が30.3%と最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が7.7%と最も低い。

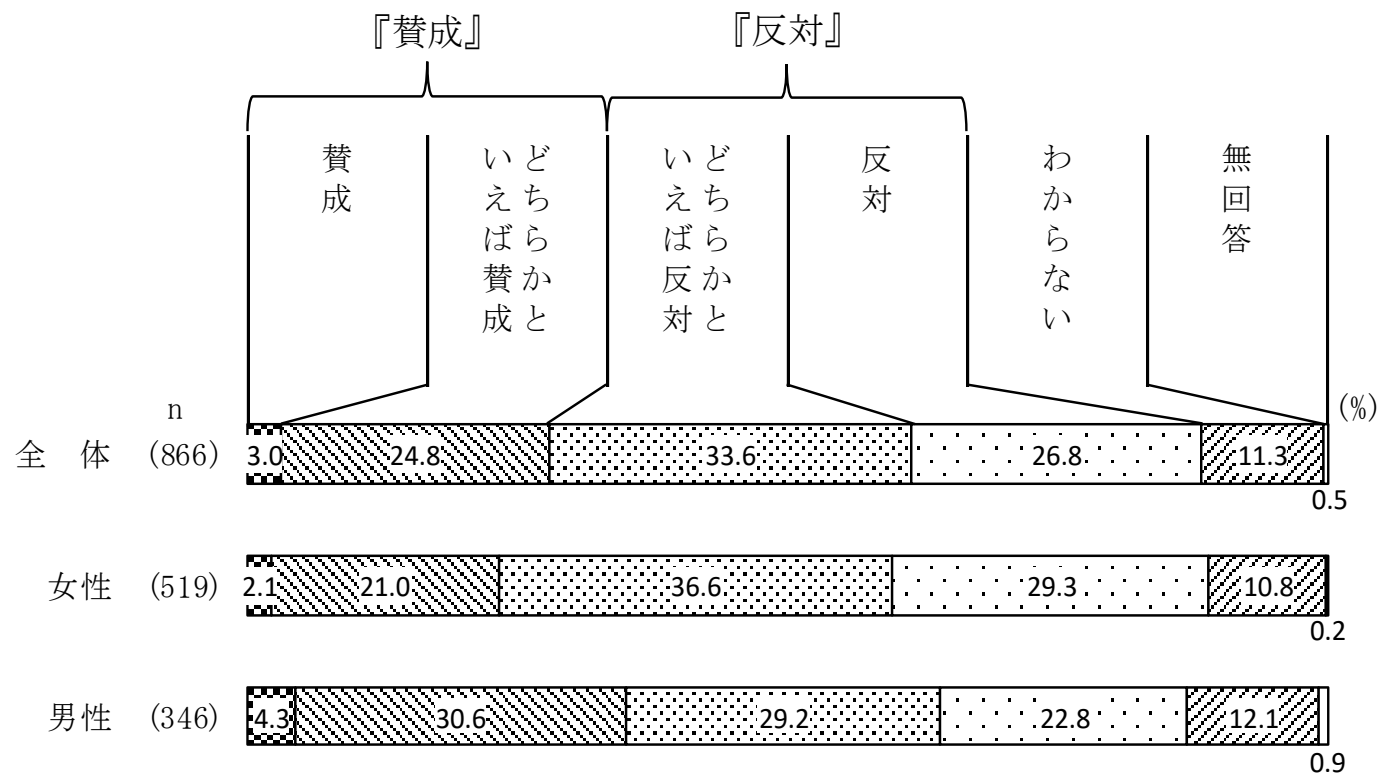
こちらも前年と同じ傾向であり、「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野で男性の方が優遇されているとする回答が最も多く、年代による差はあるが、どの年代も同様の傾向である。



# 1. 男女共同参画社会に関する意識について

## 性別役割分担意識(問3)

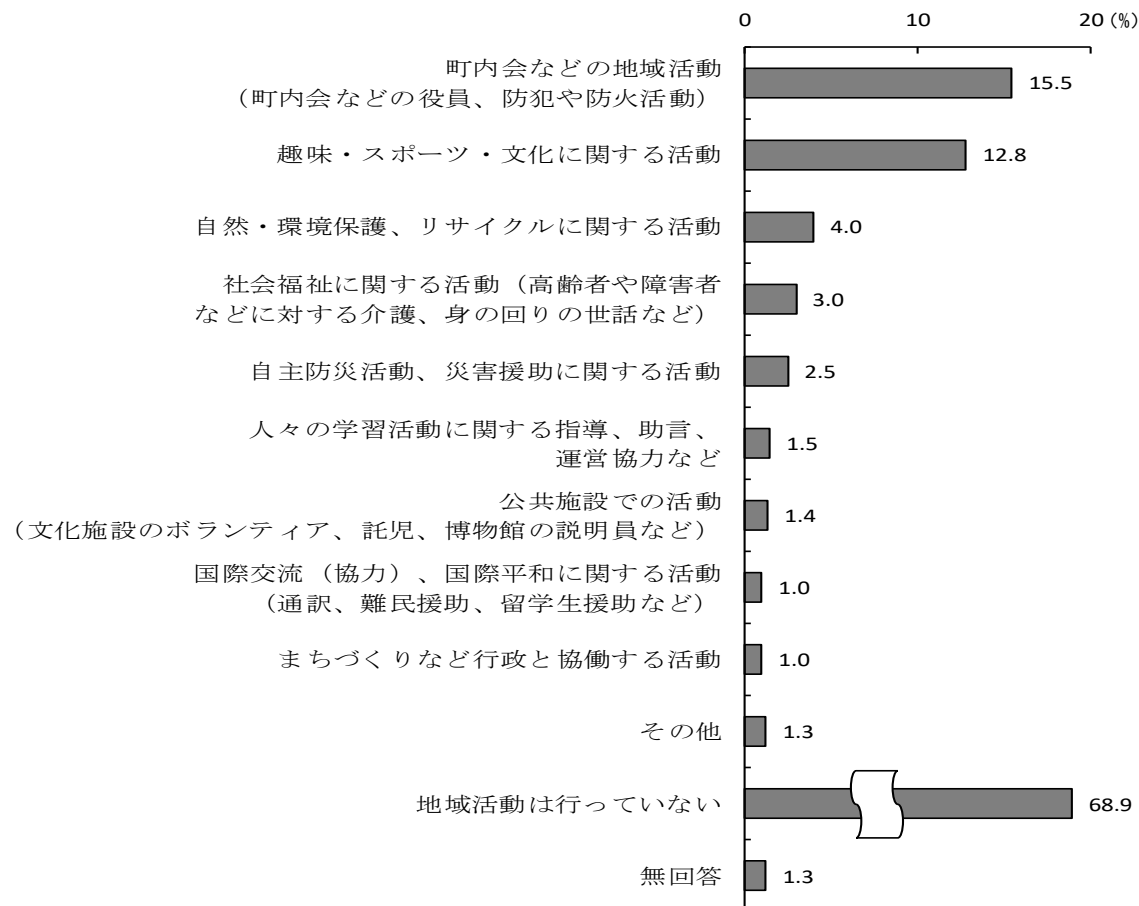
「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分担意識についてですが、全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は27.8%である。一方、「どちらかといえば反対」、「反対」を合わせた『反対』は60.4%で、『反対』の方が32.6ポイント高くなっている。性別で見ると、『賛成』は女性が23.1%、男性が34.9%で、男性の方が11.8ポイント高くなっている。逆に『反対』は女性が65.9%、男性が52.0%で、女性の方が13.9ポイント高い結果となっており、回答者の約60%程度が、性別役割分担に反対という結果は、前年と同じ傾向である。



## 2. 地域活動における女性の参画

### 現在参加している地域活動(問4)

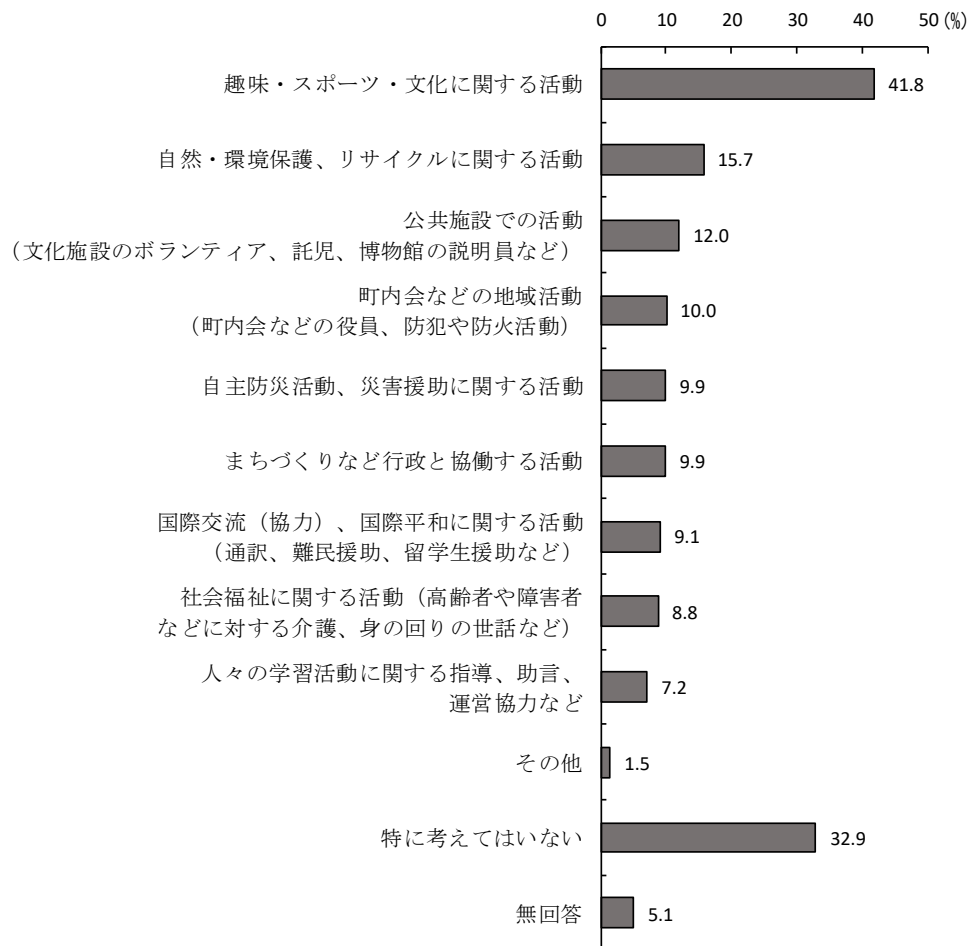
全体では、「地域活動は行っていない」(68.9%)が最も高い。また、行っている地域活動としては、「町内会などの地域活動(町内会などの役員、防犯や防火活動)」(15.5%)が最も高く、次いで「趣味・スポーツ・文化に関する活動」(12.8%)である。前回調査とは設問の設定が異なるが、参加している活動が「町内会などの地域活動(町内会などの役員、防犯や防火活動)」や「趣味・スポーツ・文化に関する活動」などが多いのは同様である。



## 2. 地域活動における女性の参画

### 今後の地域活動への参加(問6)

今後行いたい、または続けたいと考えている地域活動についてたずねたところ、全体では「趣味・スポーツ・文化に関する活動」(41.8%)が最も高く、以下「自然・環境保護、リサイクルに関する活動」(15.7%)と続く。一方、「特に考えてはいない」は32.9%である。



## 2. 地域活動における女性の参画

### 地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由(問8)

男女それぞれを年代別にみると、「家族・育児・介護の負担が大きい」は、女性の30歳代(43.8%)で最も高い。また、女性の60歳代では「気力・体力に不安がある」(44.4%)が最も高い。一方、「仕事の負担が大きい」をみると、男性の30歳代で45.5%、40歳代で43.8%である。

「家族・育児・介護の負担が大きい」が女性の30歳代で最も高いこと、女性の60歳代では「気力・体力に不安がある」が最も高いこと、「仕事の負担が大きい」が30歳代と40歳代で高いことは、前回の調査でもほぼ同様の回答となっている。

(%)

合計(n=866)		知らない活動団体	参加するが参加しない	大きな負担がある	自分の時間が減る	不安がある	気力・体力に不安がある	介護・育児・家族の負担が大きい	家族の負担を感じる	役割や責任を担うのが難しい	活動が忙しすぎる	経済的負担がある	参加する暇がない	活動の関心がない
女性	女性合計(519)	41.2	35.6	25.4	23.9	22.0	26.0	11.6	10.8	8.9	9.2			
	20歳代(64)	50.0	50.0	29.7	35.9	12.5	9.4	7.8	14.1	7.8	17.2			
	30歳代(105)	43.8	36.2	25.7	28.8	16.2	43.8	4.8	13.3	7.6	11.4			
	40歳代(160)	40.0	27.5	27.5	25.6	19.4	27.5	15.6	8.1	10.6	5.6			
	50歳代(135)	40.7	37.8	24.4	19.3	25.2	20.0	14.1	10.4	7.4	8.1			
	60歳代(54)	31.5	37.0	14.8	7.4	44.4	20.4	11.1	9.3	11.1	9.3			
男性	男性合計(346)	46.8	36.1	39.6	23.7	13.0	5.5	13.9	13.0	10.7	9.5			
	20歳代(35)	62.9	60.0	17.1	34.3	8.6	2.9	14.3	17.1	17.1	14.3			
	30歳代(55)	45.5	36.4	45.5	30.9	9.1	3.6	7.3	18.2	5.5	9.1			
	40歳代(96)	42.7	27.1	43.8	20.8	10.4	11.5	15.6	9.4	11.5	8.3			
	50歳代(101)	48.5	33.7	40.6	21.8	13.9	3.0	11.9	9.9	11.9	12.9			
	60歳代(59)	42.4	40.7	39.0	18.6	22.0	3.4	20.3	16.9	8.5	3.4			

合計(n=866)		閉鎖的・気取った雰囲気がある	地域に馴染みがない	協力が得られにくい	家族の理解が得られない	思いやりが足りない	家族が参加しづらい	女性が参加しづらい	男性が参加しづらい	世界的に、活動に参加しない	その他	特になし	無回答
女性	女性合計(519)	5.2	4.6	4.4	0.8	1.3	0.0	0.2	1.9	2.3	4.0		
	20歳代(64)	6.3	6.3	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	30歳代(105)	3.8	1.9	1.9	1.0	2.9	0.0	1.0	3.8	0.0	2.9		
	40歳代(160)	6.3	4.4	8.8	0.0	0.6	0.0	0.0	1.9	2.5	6.9		
	50歳代(135)	5.9	5.9	3.7	0.7	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0	4.4		
	60歳代(54)	1.9	5.6	3.7	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	7.4	1.9		
男性	男性合計(346)	9.2	4.3	1.2	1.4	0.0	1.7	1.4	3.2	3.8	2.6		
	20歳代(35)	2.9	5.7	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9		
	30歳代(55)	5.5	9.1	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	7.3	3.6	1.8		
	40歳代(96)	12.5	5.2	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	6.3	5.2		
	50歳代(101)	6.9	2.0	1.0	3.0	0.0	3.0	2.0	4.0	4.0	2.0		
	60歳代(59)	15.3	1.7	3.4	3.4	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0		

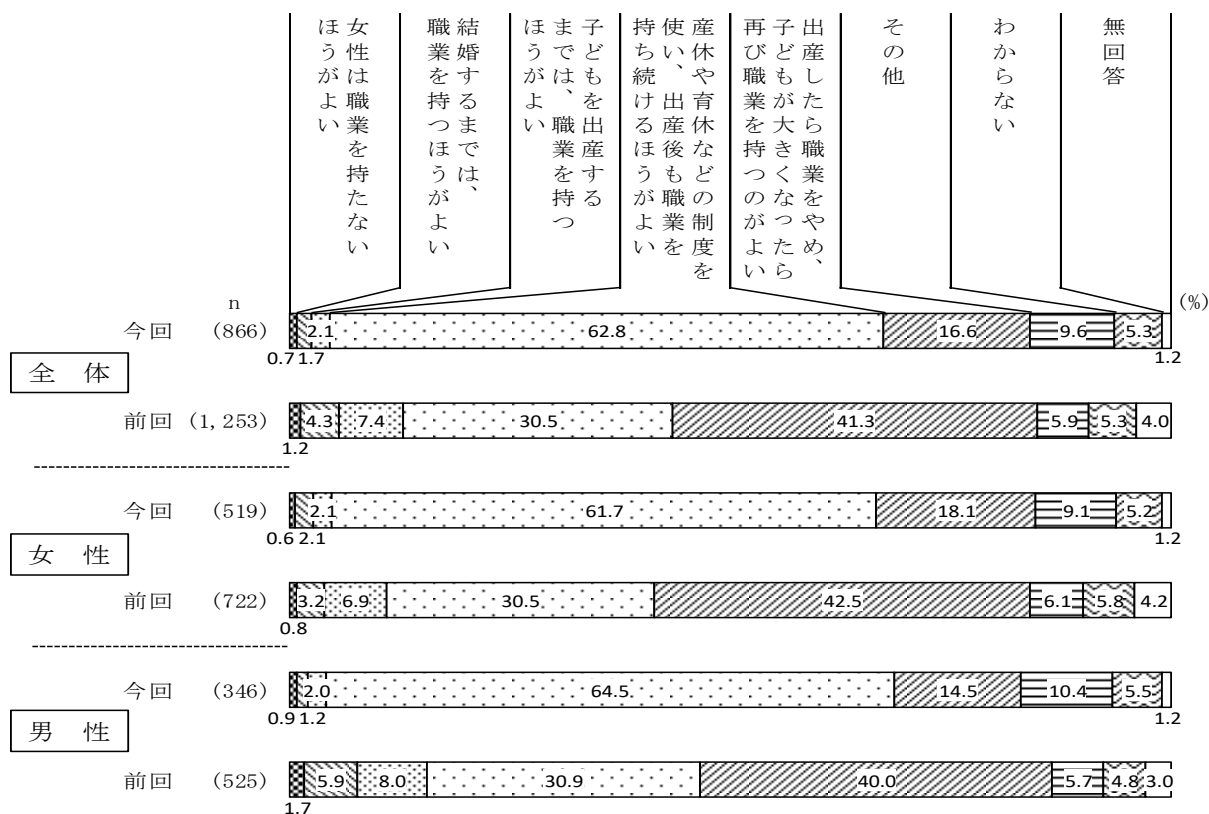


### 3. 職場における女性の参加

## 女性に対する職業観(問11)

女性が職業を持つことについての設問では、全体では、「産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい」(以下、出産後も職業を持ち続けるほうがよいと表記)が62.8%と最も高い。次いで「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(以下、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよいと表記)が16.6%、さらに、「子どもを出産するまでは、職業を持つほうがよい」が2.1%、「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」が1.7%、「女性は職業を持たないほうがよい」が0.7%と続く。

前回調査と比較すると、全体では、「出産後も職業を持ち続けるほうがよい」(今回62.8%、前回30.5%)が、前回から32.3ポイント増加している。一方、「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」(今回16.6%、前回41.3%)は、前回から24.7ポイント減少した。同時に「子どもを出産するまでは、職業を持つほうがよい」(今回2.1%、前回7.4%)についても、前回から5.3%減少しており、結婚や出産により職業生活を中断することなく、職業を継続することへの意識変化が伺える。

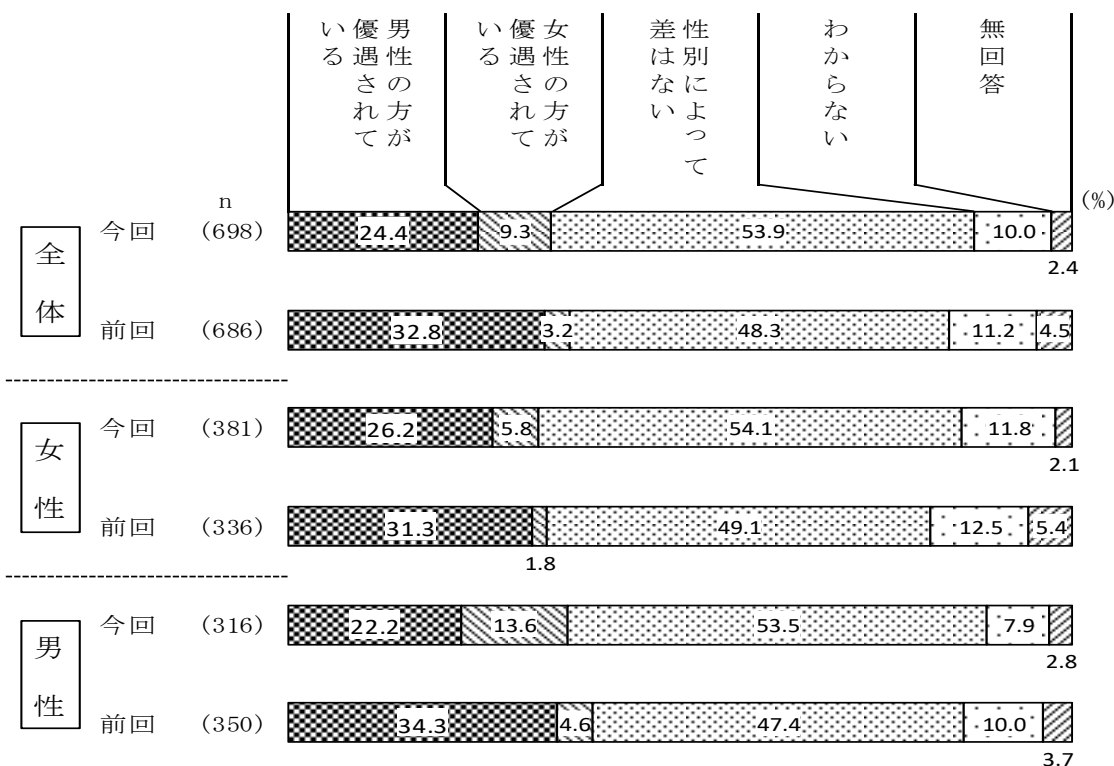


### 3. 職場における女性の参画

#### 職場内の性別による差別的待遇の有無(問12-1)

回答者中、現在仕事に就いている人(698人)に性別による扱いの差の有無をたずねたところ、全体では、「男性の方が優遇されている」は24.4%(前回32.8%)、「女性の方が優遇されている」は9.3%(前回3.2%)で、「性別によって差はない」が53.9%(前回48.3%)で最も高い。

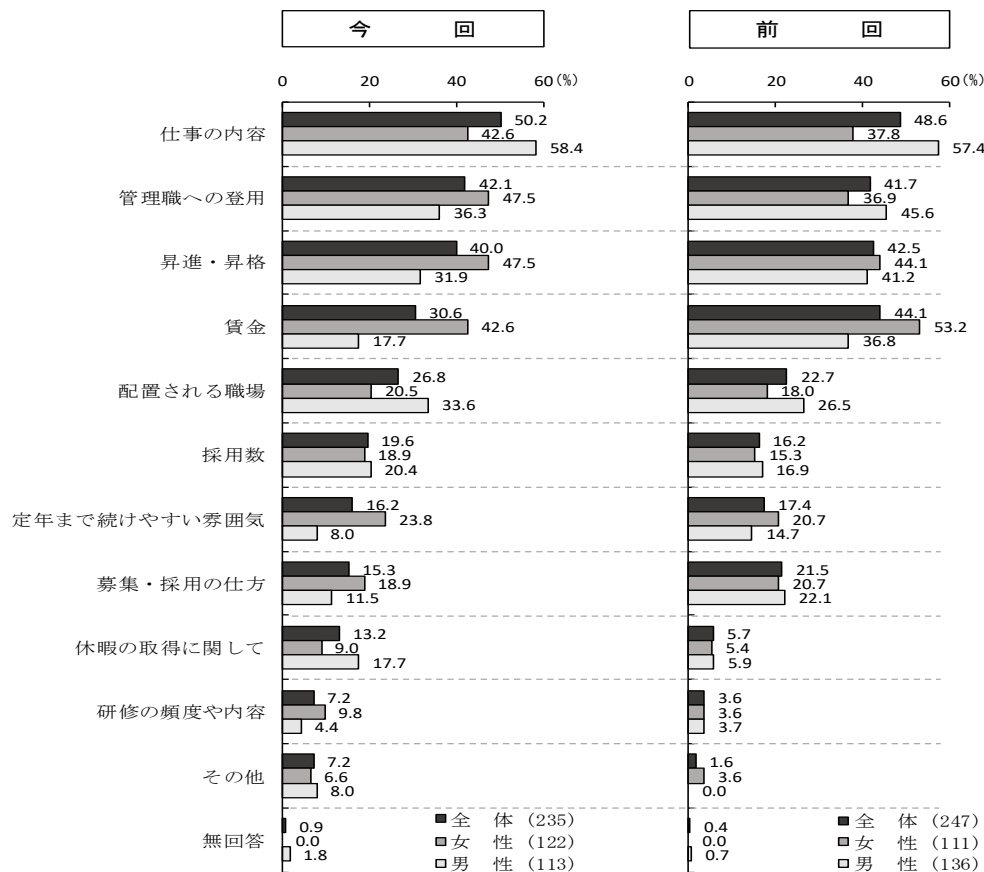
性別では、「男性の方が優遇されている」(女性26.2%、男性22.2%)は、女性の方が4.0ポイント高い。前回調査との比較では、「性別によって差はない」は、女性では5.0ポイント、男性では6.1ポイントと共に増加している。



### 3. 職場における女性の参画

## 職場内の性別による差別的待遇の具体的内容(問12-2)

「男性の方が優遇されている」または、「女性の方が優遇されている」と回答した人(235人)に具体的な内容をたずねたところ、全体では、「仕事の内容」(50.2%)が最も高い。次いで「管理職への登用」(42.1%)、「昇進・昇格」(40.0%)となっている。

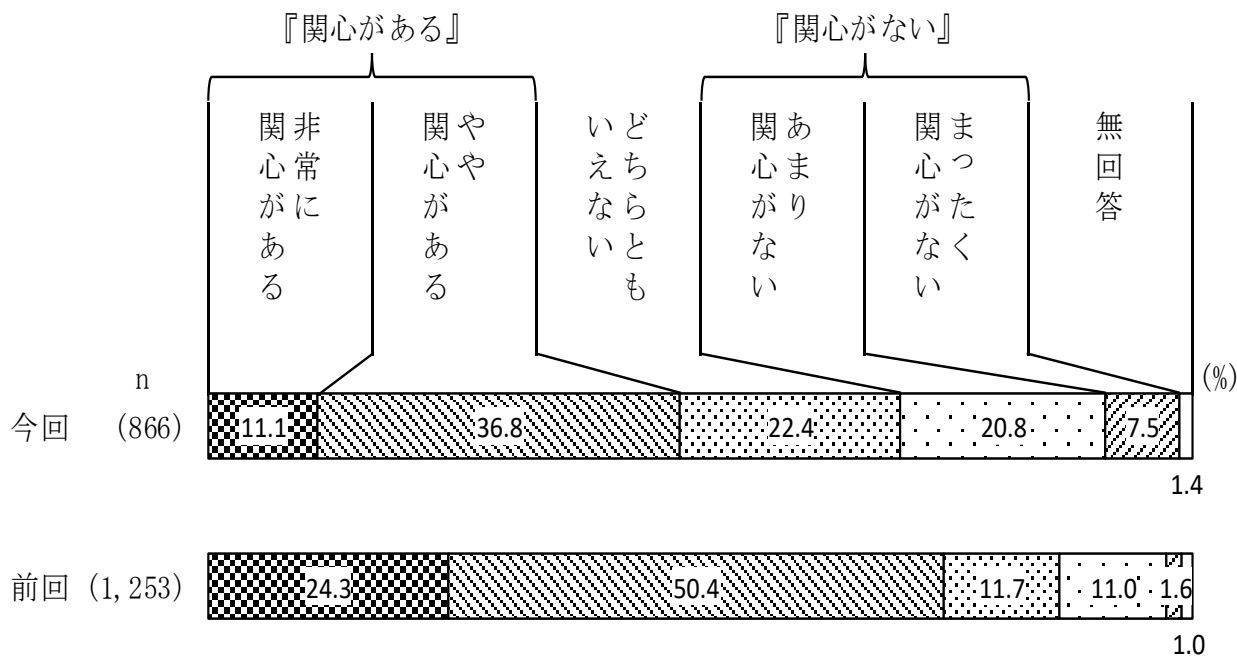


## 4. 政治における女性の参画

### 政治への関心(問16)

政治への関心について男女にたずねたところ、全体で見ると、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は47.9%、また「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』は28.3%で、「どちらともいえない」は22.4%である。

前回調査と比較すると、『関心がある』(今回47.9%、前回74.7%)は前回から26.8ポイントも減少しており、男女ともに全年代で、ほぼ同じ減少傾向となっている。

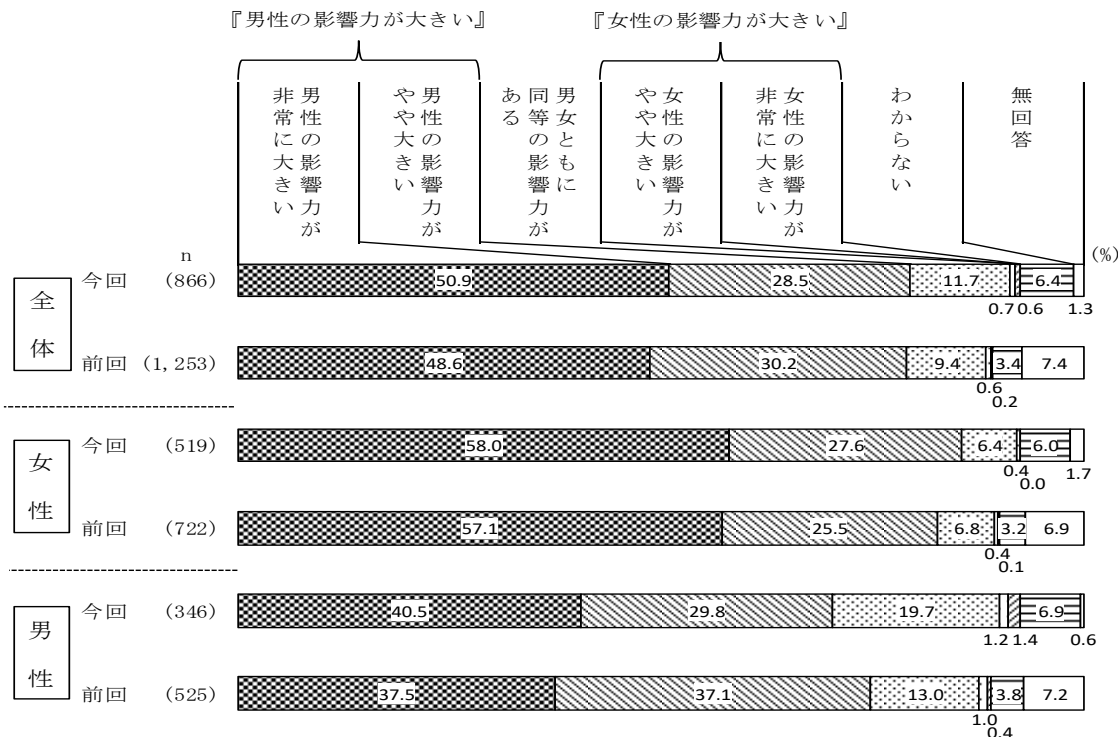


## 4. 政治における女性の参画

### 政治における方針・意思決定する際の影響力(問18)

全体では、「男性の影響力が非常に大きい」と「男性の影響力がやや大きい」を合わせた『男性の影響力が大きい』は79.4%（前回78.8%）である。また、「女性の影響力がやや大きい」と「女性の影響力が非常に大きい」を合わせた『女性の影響力が大きい』は1.3%（前回0.8%）である。また、「男女ともに同等の影響力がある」は11.7%（前回9.4%）である。性別では『男性の影響力が大きい』（女性85.6%、男性70.3%）は、女性の方が15.3ポイント高い。また、「男女ともに同等の影響力がある」（女性6.4%、男性19.7%）は、男性の方が13.3ポイント高い。前回調査と比較すると、女性では、『男性の影響力が大きい』が3.0ポイント増加している。

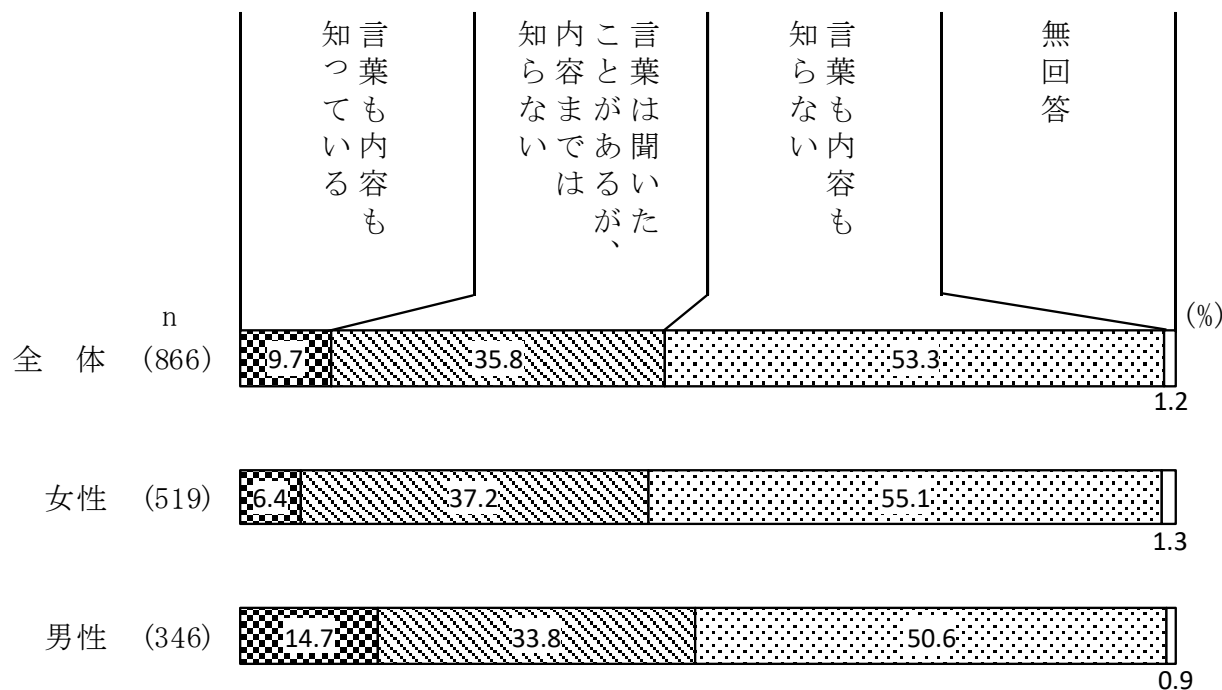
なお、男女それぞれ年代別では、「男性の影響力が非常に大きい」は、女性の30歳台で最も高く、男性の50歳台が最も低い回答となっている。



## 4. 政治における女性の参画

### 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度(問21)

平成30年5月23日に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されました。この法律について知っているかたずねたところ、全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている(聞いたことがある)』は45.5%であった。一方で、「言葉も内容も知らない」が53.3%である。性別でみると、「言葉も内容も知っている」(女性6.4%、男性14.7%)は男性の方が8.3ポイント高い。



# 今後にむけて

## (1) 女性の社会参画推進

社会通念・慣習・しきたりなどで『男性の方が優遇されている』と考えている人が全体の77.3%、それ以外の分野でも同様の回答が4～5割程を占めている。また、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に『反対』の人が全体の60.4%である一方、女性の23.1%、男性の34.9%が『賛成』している。今後、女性の社会参画を推進するにあたって、法整備もさることながら、暗黙のルールや伝統的な枠組みによって男性が優遇されたり、旧来の性別役割分担を強制されたりしないよう、啓発活動を続けることが求められる。

## (2) 地域活動における女性の参画

全体の68.9%が「地域活動は行っていない」と回答。また、地域活動に参加しない、または参加の支障になると思う理由では、「どんな活動団体があるのか知らない」が全体の43.5%となったほか、女性では30歳代の43.8%が「家族・育児・介護の負担が大きい」を挙げ、男性では30歳代の45.5%、40歳代の43.8%が「仕事の負担が大きい」を挙げている。今後、地域活動への女性の参画を促すために、行政や活動団体がそれぞれ情報発信を活発にしていけること、併せて、女性・男性とも育児や介護、仕事の負担を分かち合っていけるような環境の整備が望まれる。

# 今後にむけて

## (3) 職場における女性の参画

女性に対する職業観では、全体の62.8%が「産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい」と回答、前回調査から大幅に増加した。一方、就業者の24.4%が職場内で「男性の方が優遇されている」と回答、男女で扱いに差を感じる事として、「仕事の内容」「管理職への登用」「昇進・昇格」などが挙げられている。女性の参画を推進するために、出産後も働くことを望む女性が働きやすいような環境を整備すること、男女間の差別的待遇を是正し、女性がより多く管理職などへ昇進できるよう、企業や団体などへの啓発活動を行っていく必要がある。

## (4) 政治における女性の参画

全体の79.4%が、政治における方針・意思決定する際の影響力について『男性の影響力が大きい』と回答した。また、衆議院議員に占める女性の割合について「男性と女性の割合を同じにすべきである」と回答した人が全体の47.8%で、現状の男女比について、多くの人が問題意識を感じている。国や社会のあり方を決める政治に女性が参画できないことは望ましい状態ではなく、今後、参画への障壁を取り除くような環境作りが必要になる。

発行日：令和2年3月

発行：千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課  
千葉市男女共同参画センター 電話043-209-8771